

## 【いじめ・問題行動】

いじめや虐待のニュースが耳に入ってこない日がないくらい大きな社会問題になっています。統計を見るといじめの認知件数は増え続けていて、その背景にはこれまでには見られなかったネットいじめが多くなっていることも考えられます。

いじめの定義というものも様々ないじめの形態を反映させながらその表現が変わってきています。今は、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」とちょっと分かりにくい表現も交じっていますが、簡単に言えば「児童本人が心身の苦痛を感じているもの」をいじめと言うことになります。ここで言うところの「苦痛を感じた」「苦痛を感じさせられた」の反対には、それを「感じさせた」人の存在があります。しかし、その両者はいつも同じ立場に立っているかと言えばそうではないこともあり、時には逆の立場になることもあります。私たちは、そういうことが起きた場合にはしっかりと対応しなければならないことは言うまでもないことですが、そうならないようにするために日頃から子どもたち一人ひとりをよく見て、必要な支援をしていかなければならないのです。そのために、子どもたちの生活の場である教室、遊び場、ときはは廊下などに意識的に出ていくことが必要です。学校でよく見られるのが、男の子では“遊びを通してのトラブル”、女子では“友だちを独占したい（自分が一人になりたくない）ための様々な行動”などです。誰もが経験する子どもの世界の出来事かもしれません。これをなくすことはできないでしょうが、そういうときにどうしたらよいか、どうすることがよいかを一緒に考えることは大切です。

## 【大切なもの】

ある朝、3年生の子が校長室で読んでいた絵本が「はしれ江ノ電 ひかりのなかへ」でした。

主人公の男の子は、心臓に重い病気があって若くして亡くなってしまいます。母親もその子が9歳のときに同じ病気で亡くなってしまいました。物語は、お父さんや病院の先生たちが相談し、江ノ電の方々に協力してもらって大好きな江ノ電を運転させてもらえたというものです。3年生の子が「この本かなしいよ」と私に教えてくれたのですが、それは主人公の男の子が亡くなってしまったからということだけでなく、絵本の後半にあった、男の子と父親の会話がその子の心に強く残ったからではないかと思いました。

そのやりとりは、

男の子「ねえ、おとうさん。ぼく生まれてきてよかったの？」

「ぼくはたすけてもらえばかりで、なんにもしてあげられない」

父親「いいんだ。ともくんはともくんのままでいい。それだけでおとうさんはうれしいんだ。」

私も何度も何度もこの場面の2人のやりとりを読み返しました。

そのとき絵本を読んでいた子どもがどう思ったのかは聞くことができませんでしたが、「あなたがいてくれるだけで幸せだよ」という親からのメッセージは子どもにとって何より嬉しいものです。

日々忙しくしている保護者の皆さんの中には、子どもが親の思うように頑張れない、なかなか期待にこたえてくれないと思うことや、いけないことだと分かっているけど他の子どもたちと比べてしまうこともあるでしょう。でも、子どもの欠点が見えてくるちょっと手前に実は子どものよいところを見落としていることもあるかもしれません。これは、学校でも私たち教員が気を付けなければならないことです。

## 【元気な挨拶】

朝早い時間、Bグラウンドの横を歩いているとサッカーを楽しむ子どもたちの姿を多く見かけます。特に4年生が多いようです。サッカーに夢中になっている子どもたちに少し大きな声で「おはようございます」と声をかけると、元気な「おはようございます」の声があちこちから聞こえてきます。今の声はA君、次はI君、今度はK君だな、・・・そんなことを思いながら、冷たい風が吹きつける中ではありますが、心が少し温かくなる毎日です。

少し前のことになりますが、ある子どもへの誕生日カードに、「いつも挨拶をするときにちょっと立ち止まってこちらを見てくれますね」というようなコメントを書きました。もちろん、その場の様子で、立ち止まることができないときもあります。でも、そういう丁寧な挨拶を心がけてくれているというのは何て素敵なことでしょう。ご家族での子どもへの接し方がこのようにできていることが伝わってきます。

ここには元気な挨拶と表題には書きましたが、実際に人と人との間に交わされる望ましい挨拶は、「心が通う挨拶」です。できれば、その挨拶のときに、「変わったことはないですか？体調はどうですか？・・・」そんな一言が加わるとよいのでしょう。時間があるときはそういうことを心がけてみます。今朝の校長室での5年生の男子と私の会話は・・・「おはようございます」「おはようございます」「ここに来てくれるの久しぶりですね」「寒いから来ました」「寒くなくてもきてほしいです」「・・・」それだけでも私は楽しい時間と感じます。